HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	献辞
Citation	經濟學研究, 62(3), vii-viii
Issue Date	2013-02-21
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/52245
Type	other
File Information	ES_62(3)_vii.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

献　　辞

宮本謙介教授は，2013 年 3 月 31 日付をもって定年退職される。教授は永年にわたり本学部の学生，大学院生の教育指導にあたられるとともに，多くの研究成果を挙げられ，北海道大学とわが大学院経済学研究科・経済学部の発展のために多大の貢献をなされた。この功績に報いるため，本誌を教授の退任記念号として献呈したい。

教授は，1973 年に大阪外国語大学（現大阪大学）外国語学部を卒業された後，同年東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の研究員として入所され，さらに 1974 年に東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程に進学され，1977 年に同修士課程を修了し，引き続き一橋大学大学院社会学研究科博士課程に進学され，1981 年 3 月に同博士課程を修了された。その後，1984 年から 1986 年まで東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所で研究を続けられて，1986 年 4 月から 1987 年 12 月まで工学院大学教養部の教壇に立たれた。上述のような経緯の後，1988 年 1 月，迎えられて北海道大学経済学部経済学科助教授として赴任され，その後，1994 年 5 月に教授に昇任され，2000 年 4 月には大学院経済学研究科教授に昇任された。

本学赴任後，大学院経済学研究科において主として「アジア経済史」の授業を担当された。教授は今日までの 25 年余の永きにわたり，その豊富な学識と高い見識とをもって，学部学生，大学院生の教育，指導にあたられ，とりわけ大学院経済学研究科では数多くの優れた研究者を養成し，世に送り出されている。教授がアジア研究を始められた 1970 年代当時，先行の研究蓄積は極めて乏しく，大学にはアジア関連の講座もほとんど存在しないという未開拓の研究領域であったが，教授は生来のパイオニア精神でアジア研究を志望されたという。当時に比して今日のアジア研究の隆盛には隔世の感がある，とは教授の弁である。

宮本謙介教授の研究業績は多岐にわたるが，その概略のみ示せば以下のようである。

アジア経済史の専門領域では，大学院時代から取り組まれていたインドネシア近代経済史の業績がまず挙げられる。オランダ植民地時代の社会経済システムを分析課題とし，オランダの文書館で収集された未刊行の一次史料を駆使した研究であり，国際的にも高い評価を受けられた。同研究は『インドネシア経済史研究』（ミネルヴァ書房，1993 年）に纏められ，同書によって一橋大学から博士号を授与されている。

アジア経済史の研究に加えて，1991 年のインドネシア科学院での在外研究を契機に，現代アジア経済への関心も深まり，特に当時未開拓とされた労働経済の実証研究にも本格的に取り組まれた。以来 20 年以上にわたるアジア労働市場に関する現地調査は，10 カ国 18 地域，調査回数 30 数回，調査企業 100 社以上，労働者のサンプル調査は総計で 1 万人を超えている。経済開発に伴って形成される各国・各地域に特有の労働市場の性格分析が課題であり，その対象地域は東南アジアばかりでなく，中国・韓国・台湾・インドなど広範囲に及んでいる。その研究成果は『開発と労働』（日本評論社，2001 年），『アジア開発最前線の労働市場』（北海道大学出版会，2002 年），『アジア日系企業と労働格差』（北海道大学出版会，2009 年）などに纏められた。

その他，北大での経済史の共同研究の成果は編著『世界経済史入門』（ミネルヴァ書房，1992 年），他大学アジア研究者との共同研究では，大阪市立大学経済研究所の「アジアの大都市」プロジェクトに参画されて主導された編著『アジアの大都市』（日本評論社，1999 年），長年の歴史研究の成果をテキストとして集大成された『概説インドネシア経済史』（有斐閣，2003 年）など，教授の研

究は時代的にも地域的にも広範囲に及ぶものである。

教育面では学部での「アジア経済史」「一般経済史」「開発経済学」などの授業担当の他，学部生・大学院生の研究指導にも実に熱心に取り組まれた。過去 20 数年間に学部ゼミナールの卒業生は 150 名，大学院で指導された修士課程院生は 50 名（うち留学生 30 名），博士後期課程院生は 19 名（うち留学生 10 名）に達する。教授の指導下で学んだ大学院修了者たちは現在，日本の大学ばかりでなく，中国・台湾・インドネシア等の大学でも教鞭をとっており，教育面での国際貢献も大きい。

また，関係学会の理事や地区委員を歴任された他，近年では北大で開催された東南アジア学会全国大会の大会委員長を務められるなど，学会への貢献も顕著である。

以上のような研究・教育面における多大な貢献に止まらず，大学の管理運営面でも教授はその枢軸にあって重責を担ってこられた。学内では，経済学研究科学科長，全学学生委員会専門部会委員長，全学アドミッションセンター企画運営会議委員，経済学部 AO 入試委員長などの要職を務められた。また，全国的な大学入試制度改革に関連する職務では，長年にわたり国立大学協会・入試委員会専門委員，大学入試センター・試験企画委員会専門委員，全国大学入学者選抜研究連絡協議会・企画委員会専門委員などを歴任され，特に北大を代表して全国の大学入試改革の仕事に従事してこられたことは特筆に値する。

このように宮本謙介教授は，研究者として優れた業績をあげられ学術の発展・振興に寄与されたほか，教育者としても優秀な人材を数多く世に送りだされ，また，全国レベルでの大学入試制度改革におけるご功績もまことに顕著なものがある。

教授が定年を迎えられるにあたり，北海道大学および本研究科に対する多大な貢献に感謝すると同時に，今後の益々の御活躍と御健勝を祈念する次第である。

2013 年 2 月

北海道大学大学院経済学研究科長　　吉　見　　宏